

平成 25 年度

事業所名 : グループホーム もみじ苑

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371100488		
法人名	有限会社メープル		
事業所名	グループホームもみじ苑		
所在地	〒026-0001 釜石市大字平田第1地割1-16		
自己評価作成日	平成 26 年 3 月 16 日	評価結果市町村受理日	平成26年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0371100488-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成 26年 3月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念の『一人一人が感情豊かにありのままに笑顔』という考え方を基本とし、一人一人の喜怒哀楽を皆で共有しながら過ごせるようにケアに取り組んでいます。一人一人がそれぞれのペースで自由に過ごし、趣味活動を行ったり散歩やドライブに出かけたり、できる範囲で家事を行いながら、可能な限り今までの馴染みの暮らしが継続でき、毎日笑顔で過ごせるように支援しています。また近隣の方々や、地域の保育園や小学校等のお互いの行事に参加しながら交流を深めています。利用者の方々の、出来る事・得意なことを見出し、役割を持っていただきながら、その人らしい暮らしが継続できるよう支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新興住宅地の一角に位置しており、一昨年に同一法人が近隣に新しい事業所を立ち上げ、日常的な散歩等で利用者同士の新たな交流が持たれている。新興住宅地にも関わらず何かがあれば声かけ等があるなど、近隣の住民との交流や協力等も得られている。新規事業所開設に伴う人事異動等により職員が新しくなるなど、震災後の沿岸地域全般に見られることではあるが十分な職員体制とは言い難い中で職員全員が一体となり日々の支援に当たっている。また利用者も震災後にほとんどが新しく入居となったが新たな関係が築かれており利用者職員地域住民等がつながりを大切にしながら日々を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム もみじ苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で作った理念を見やすい場所に掲げ、常に確認しながら日々のケアを行っている。	理念を事務所や玄関先に掲示し職員は日常的に目にする事で再確認ができ、またミーティング等では職員間で確認を行いケアに結び付けている。事業所開設時に作成した理念について毎年話し合う必要があることから継承している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所との日常的な挨拶やおすそ分け、町内会・保育園・小学校との相互の行事参加等で交流を深めている。	小学校からは学習発表会や運動会の招待を受け、見学に出かけている。地元住民とは地元の「桜舞太鼓」が事業所に来てくれた時に一緒に聞いたり、弁当を食べたり等日常的に交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や苑の行事を通して、苑での取り組みや認知症の人の理解を深めてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、利用者の暮らしや状況について報告している。参加メンバーからの情報提供や意見要望をいただき、サービスの向上などに生かしている。	隔月開催で地域包括支援センター職員、小学校・保育園関係者、利用者家族に加え地域住民が推進委員として参加している。事業所からの活動状況等の報告が中心だがインフルエンザの流行時期には地域包括職員からの情報提供等がある。	年間のテーマを計画しその時々テーマに応じて臨時委員を招聘する等の工夫をすることにより様々な情報や課題の発見に繋がりよりよいサービス向上に結び付くことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に推進会議に参加していただく、市の担当窓口へ定期訪問を行い、苑の近況報告や情報交換・相談等を行っている。	法人代表が2週に1回ほどの割合で市に訪問し事業所の近況報告や広報誌「もみじだより」を持参したりしていることで、顔なじみの関係が形成され情報交換や手続き等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという基本姿勢でケアに取り組んでいる。職員の声掛けや対応が身体拘束になっていないか話し合うようにしている。	「身体拘束排除」を掲示し、また職員はミーティング時に研修を行い身体拘束を行わない日常のケアに取り組んでいる。職員の気持ち不安定なときなど言葉遣いに気になる点がある時には、その都度注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修会を行い理解を図っている。また、日々のケアの中で、不適切と思われるケアを見逃ごすことのないよう、スタッフ間で注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している方がいないため、学ぶ機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時は、本人や家族と話し合い、きちんと説明を行い、納得していただいている。また改定がある時もきちんと説明を行い、納得していただいたうえで、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族全員が運営推進会議のメンバーとなっており、会議の中で意見や要望を出していただいている。また、普段から利用者や家族が意見や要望を言えるよう話しやすい雰囲気づくりに努めている。	年1回の家族アンケートを実施し、家族会でその結果報告をしている。家族の意見として職員の異動や新人職員が多く、利用者が不安に感じている事に対応するため、広報誌に写真と名前を載せて発行するなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやミーティング、個人面談などでスタッフから意見や要望を聞き、できる限り反映している。	日常的に意見が述べやすい環境である。職員からの意見で利用者の体調等に変化がある時に対応するために勤務体制の見直しが必要という意見があり、体制の変更を行うなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用管理講習等に参加し、労働条件改善に努めている。またスタッフの要望に応じて環境整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を行っている。外部研修についても参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH定例会や同業者の研修に参加し交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面談を行い、不安や要望を聞いている。また入所前に苑に見学に来ていただき、雰囲気を見ていただいている。入所後は、早く苑の生活に慣れ安心して過ごせるよう、声掛けや関わりを多くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談を行い、悩み、不安、要望を聞き、安心して利用できるよう努めている。入所後も不安や要望を気軽に話していただけるような雰囲気づくりや関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談があった時に当苑での支援内容を説明し、必要に応じては、他施設や他のサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の喜怒哀楽を利用者・スタッフ皆で共有し、思いを受け止めたり、一人一人の出来る事、得意なことを発揮していただきながら、お互いに助け合い、共に過ごし、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのかかわりの重要性を説明し、理解していただきながら、入所後も家族とのかかわりを継続していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも友人や知人などの面会や外出を受け入れたり、馴染みの場所への散歩やドライブ・買い物にでかけ、関係が継続できるよう支援している。	入居前に通っていたディサービスへの訪問、自宅近辺へのドライブ、馴染みの商店への買い物、又遠くの姉妹から時々届く絵葉書でのやり取りなど馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持ちながら、楽しく過ごせるように、利用者同士の関係を把握しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	苑を退所され、他施設へ入所される時は、入所先へ情報提供を行い、環境の変化に対するダメージが軽減されるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動・表情から、本人の希望や意向を把握するように努めている。	利用者の多数は会話等で思いや意向を話されている。積極的に話さない利用者については日常の行動や表情からくみ取ったり、家族等からの聞き取ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中で、本人から聞いたり、面会時等に家族から聞きながら、これまでの暮らしの把握に努めている。新しく入所される方については、担当していたケアマネから状況を聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターンを把握しながら、一日の経過を観察し、スタッフ全員が心身状態を把握できるよう申し送りの徹底に努めている。また、利用者とのかかわりを持ちながら、一人一人の出来る事、得意なことを見出すよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を重視し、家族からも意見や要望を聞いたり、主治医から意見をいただきながら、介護計画を作成している。	利用者の意向に基づいたケアプランを通常は3ヶ月ごとに見直し、作成している。モニタリングは職員からの情報を基にケアマネジャーがとりまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録や申し送りノートに記入し、全スタッフが情報を共有しながら、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出・外泊等、要望に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園や小中学校との相互交流を行い、地域と関わりを、持ち楽しく暮らせるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も本人や家族の希望する病院の受診を支援している。かかりつけ医以外にも、状況に応じて本人や家族が希望する医療機関の受診を支援している。	希望のかかりつけ医で、通院は家族同行を原則としているが家族の事情により事業所で介助するケースが多くなってきている。かかりつけ医からは安心のためにも訪問診療に変更することの説明がなされている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の状態を把握し、必要に応じてかかりつけ医や看護師に相談している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と相談しながら、担当医や看護師、相談員と情報交換し、話し合いをしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、当苑で出来る事・できないことを、家族に説明している。	重度化や終末期の対応は医療行為が必要になった時点で対応ができない事を家族会議、推進会議、面会時等で家族等に説明している。対応できないような状況の場合には適切な施設等への移行について説明と援助等を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応手順や、AEDの使用方法について研修を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は3回避難訓練を実施。1回は消防署立会いの下で行った。夜間を想定した訓練も実施している。近隣住民への協力依頼もしている。災害発生時に備え、食糧・飲料水・その他必要物品も準備している。	消防署立会いの下の実施が1回あり、それ以外にも2回の避難訓練を実施した。近隣住民参加の避難訓練は今年度はできなかったが来年度には協力を呼び掛け計画していく予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声掛けに注意を払っている。入浴や排せつ・居室入室時は特に注意を払い、プライバシーに配慮しながら、一人一人の人格を尊重した対応を心掛けている。	利用者への尊厳の表れとして呼称は「さん」付けとし、馴れ馴れしい言葉遣いにならないよう留意している。又利用者の馴染みの言葉遣いをするように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を気軽に話せる雰囲気や関係づくりに努めている。一人一人の言葉・表情・行動から希望や願を引き出し、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人それぞれのペースで生活していただいている。希望があれば、散歩やドライブで外出したり、苑内で活動したり、できる限り本人の希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師に来ていただき、髪をカットしていただいている。なじみの美容院へ通っている利用者もいる。イベント時は化粧をしたりマニキュアを塗ったりしながらおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、食べたいものの希望をとって決めたりしている。調理や片づけは、利用者のできる範囲でスタッフと一緒にいただいている。	毎日利用者の希望を聞き献立を決めている。利用者の能力等に応じ野菜の皮むきやテーブル拭き等積極的に関わっている。食事は利用者、職員と一緒にテーブルを囲み会話しながらの楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食日誌で3食と、午前午後の間食の残量を確認している。水分摂取量についてもチェックしている。食事量・水分量が少ない方は、個別に摂取できるものを提供している。栄養指導も受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯を使用している方は、夕食後にポリデント消毒を行っている。一人一人の力に応じて声掛けだけでなく、必要なところは介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンに合わせて、声掛けや誘導を行っている。	トイレでの排泄を継続するため排泄チェック表を活用し、職員が誘導している。夜間も声がけでトイレ排泄であったり、ポータブルトイレでの排泄とし自立した排泄が継続されるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便につながるように、食事の工夫をしたり、水分が不足しないようにしている。体操や散歩等で身体を動かす機会を作り、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴していただけるように、体調に配慮し、それぞれのペースに合わせ、会話を楽しみながら、入浴していただいている。入浴剤を使用し色や香りでも楽しんでいただいている。	入浴は1日おきの入浴となっているが、希望や状況等に応じた入浴ができるよう柔軟に対応している。1対1の入浴は、介助する職員と利用者の良いコミュニケーションの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの習慣や体調に合わせて、いつでも居室で休めるようにしている。夜間、安眠できるように、日中の活動を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容はファイルに綴じてあり、いつでも確認できるようにしている。間違いがないよう、薬の準備から服薬まで三重の確認をしている。服薬時は確実に飲み込むまで見守りしている。薬の変更時はスタッフに申し送り、利用者の様子観察をしながら変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や得意なことを役割として行っただけ、達成感や自信へとつながる支援を心掛けている。利用者スタッフで、歌や踊り、裁縫・家庭菜園などの趣味活動を楽しんだり、散歩やドライブなどで外出し、気分転換が図れるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に沿って、散歩やドライブに出かけている。地域の方々の協力で、地域の行事に参加したり、家族の協力で普段行けない場所へ出かけたりしている。	日常的には5分程離れている同一法人のグループホームまで散歩に出かけている。近所のスーパーまで食材の買物に職員と出掛けたりまたドライブで釜石観音等に出掛けたり家族が墓参りや理美容院に連れて行ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人のお小遣いは、苑で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人といつでも電話ができるようにしている。携帯電話を所持している方もおり、自由に家族と連絡を取っていただいている。手紙やはがきが届いた時には、スタッフがサポートしながら返事を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾りを、利用者とスタッフで作成し、飾っている。	建物の中央にある共用空間は、吹きぬけになっていて天上は高く、また窓も大きく明るい空間である。季節に合わせて利用者と職員が共同して作る作品が掲示されている。大きなソファが据え付けられゆったりと寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席の他、ソファや和室、ウッドデッキで、それぞれの利用者が好きなところに座り、一人で過ごしたり、他の利用者と会話や活動を楽しみながら過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのもの(自宅で使用していた家具や家族の写真)を置いたり、苑での活動で作成した作品や行事等で撮った写真を飾り、居心地良く過ごせるようにしている。	各居室には、写真、タンス、カレンダー、時計、鏡、ぬいぐるみ、各自の作品等が好みに飾られ、窓からは日差しが差し込み、利用者毎に使い勝手の良い部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札を張ったり、トイレやお風呂場には名称を貼っている。洗面台には水の出し方を紙に書いて貼っている。		